

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8 - 1 - : 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、講義室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館その他附属施設等）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

【観点到係る状況】

本学の校地は、東京都清瀬市竹丘校地 60,510.25 m²（本部）及び同梅園校地 8,588.36 m²（学生寮、附属実習施設）東久留米市前沢校地 2,057.04 m²（ゲストハウス）文京区小石川校地 435.38 m²（文京社会福祉専門学校）の 4 ヶ所にある。そのうち、大学と両大学院の講義等を行う竹丘校地の校地と校舎の面積は資料 H - 1 のとおりで、大学設置基準を上まわっている。各棟に配置されている講義室等は資料 H - 2 のとおりで、教員には教員研究室 1 室が割り当てられている。少人数教育を重視するための演習室 16 室、小講義室 7 室と多く、介護実習室・福祉機器活用室・ユニットケア実習室・床上介護実習室・ピアカウンセリング室等を備えた介護実習棟、図書館に併設されている子ども福祉図書館などが特徴的である。敷地内には運動場も有しており、体育施設としてグラウンド、体育館（武道場含む）プール、テニスコートがあり、年間を通して学生が有効的に正課活動や課外活動を行えるよう整備されている。梅園校地にある附属実習施設（知的障害児通園施設子ども学園）は発達に障害をもつ子どもの通所による支援（治療教育）と保護者等に対する子育てについての相談支援を行うとともに、学部生と院生の実習にも活用している。同校地内には隣接して定員 172 名の学生寮があり、学生の経済的負担の軽減に努めている。

また、障害のある学生のために、バリアフリーを基本として資料 H - 3 のような設備・教室が整備されている。今後も当事者の意見をもとに、さらに改善していくこととしている。

資料 H - 1 校地・校舎面積

区 分		面 積	大学設置基準
校 地		51,026.25 m ²	6,800.00 m ²
運 動 場		9,484.00 m ²	
校 舎	管 理 棟	2,770.30 m ²	4,462.10 m ²
	研 究 棟	2,547.78 m ²	
	教 学 棟	10,427.07 m ²	
	介護実習棟	1,611.35 m ²	
	図 書 館 棟	4,426.30 m ²	
	厚 生 棟	2,582.50 m ²	
	講 堂 棟	1,609.23 m ²	
	体 育 館	1,984.50 m ²	
	そ の 他	1,410.26 m ²	
	計	29,369.29 m ²	

資料H-2 校舎の概要

棟名	室 名
管 理 棟	学長室、教学部長室、事務局長室、事務室、会議室、保健管理センター、学生相談室、教員研究室、役員室 他
研 究 棟	研究所長室、事務室、共同研究室(3)、研究作業室(3)、講師控室、対面朗読室、福祉臨床相談室、実習教育センター、AV実習室、コンピューター教室(PC44 台)、調査統計分析室、国家試験対策室、会議室、講義室 他
教 学 棟	演習室(16)、小(7)・中(7)・大講義室(4)、多目的教室、視聴覚教室、LL教室、情報計画実習室(PC8 台)、院生研究室、情報処理分析室(PC20 台)、院生自習室、研究科長室、ロッカー室 他
介護実習棟	介護実習室、福祉機器活用室、調理実習室、被服実習室、ユニットケア実習室、床上介護実習室、ピアカウンセリング室、入浴実習室、会議室、管理室 他
図 書 館 棟	館長室、事務室、展示室、会議室、貴重図書室、閉架書庫、子ども福祉図書館、夜間閲覧室、開架書庫、コンピュータールーム(PC52 台)、ビデオ閲覧室 他
厚 生 棟	売店、食堂、喫茶室、サークル室、ゲストルーム、集会室
講 堂 棟	客席(1階：430 席、2 階：227 席)、舞台、控室、映写室 他
体 育 館	アリーナ、武道場、教員室、シャワー室、プール、更衣室 他
そ の 他	自転車置場、ペDESTリアンデッキ、渡廊下 他

資料H-3 障害のある学生への対応

区分	対応
縦方向への移動	全棟に障害者対応エレベーターの設置
横方向への移動	廊下等にスロープを設置して段差を無くし、点字ブロックや点字表示付き手摺りを設置
音声案内	メインエントランスに全棟の音声ガイダンスを設置
障害者専用駐車場	メイン駐車場に3ヶ所、教学A棟付近に1ヶ所
障害者用トイレ	全棟に配置、講義の中心となる教学A棟と介護実習棟には全階に配置
対面朗読室	視覚障害者が利用し、点字PCも設置
車椅子利用者専用机と優先スペース	車椅子利用者が受講する講義の各室と図書館に設置

【分析結果とその根拠理由】

本学の校地面積及び校舎面積ともに大学設置基準を上まわっており、本学の教育研究の目的に沿った演習室、講義室、実習室、研究室、コンピューター教室、図書館等が整備され、それらはバリアフリー化がなされており、さらに附属実習施設や学生寮も整備されており、教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されていると判断する。

観点 8 - 1 - : 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

本学の情報ネットワークは、授業で使用するコンピューター教室(PC44 台)、大学院生の研究用の情報計画実習室(PC8 台)及び情報処理分析室(PC20 台)を備え、全学生が授業以外にも利用できるコ

ンピュータールーム(PC52 台)を図書館棟に設置し、光ファイバーを用いた学内 LAN 接続によるインターネット使用環境にある。教員研究室・事務室においても同様である。また、視覚障害者・肢体不自由者用の専用ソフトウェアや音声読み上げソフト・特殊キーボード・点字プリンター等を整備した端末を、コンピューター教室と図書館のコンピュータールームに設置している。学生のメールシステムは学内外から利用できるものとなっており、学生の教育活動やキャリア形成支援、コミュニケーション支援に役立つものとなっている。さらに、「社大ネットへようこそ」を配布し、インターネット使用におけるモラル及びマナーの向上を図っている。学生及び教職員が利用する PC は、教育研究活動に支障がないように適時更新を行うとともに、サーバー機器やネットワーク機器は必要時にメンテナンスや更新を行っている。

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されていると判断する。

観点 8 - 1 - : 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、構成員に周知されているか。

【観点に係る状況】

基本的な施設・設備の運用に関する事項は「学校法人日本社会事業大学が使用する施設の管理に関する規則（資料 8-1-3-1）」に定められており、全教職員に配布するとともに、学生に対しては学生生活ガイドブックに掲載し全学生に配布し、新入生のオリエンテーション時に周知している。（資料 1-2-1-1）。同ガイドブックには、さらに「日本社会事業大学附属図書館利用規程(抄)」「日本社会事業大学附属図書館図書複写細則」、ロッカーの使用、通学・自転車登録、サークル活動・サークル室、講義室・体育施設の使用等、学生相談室、保健管理センター、情報システム管理センター等の学生生活に関係する全ての施設等の利用案内・方法が掲載されており、オリエンテーション時に関係部局より詳細に説明がなされ、周知している。

資料 8-1-3-1 学校法人日本社会事業大学が使用する施設の管理に関する規則 資料 1-2-1-1 学部学生生活ガイドブック
--

【分析結果とその根拠理由】

施設・設備の運用方針については明確に規定されており、全学生・教職員に配布し、学生に対してはオリエンテーション時に詳細に説明を行っておることから、構成員に周知されていると判断する。

観点 8 - 2 - : 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

本学図書館は、約 22 万冊の資料、3,300 タイトルの雑誌を所蔵し（資料 H - 4）、なお更新・受入を進めている。社会福祉の単科大学という性格から、その収書の過半数が社会福祉・社会保障に関する図書である。その中には、中央社会事業協会の旧所蔵書をはじめとした社会福祉の貴重なコレクションがある。貴重図書はマイクロフィルムやデジタルライブラリで閲覧できる。蔵書の構成は、本学の教育目的である福祉の入門書・専門書を主に収集しているが、他の分野も幅広く収集しており、図書館運営委員による選書の他、学生からのリクエストも選定内規に適用するものであれば収集している（資料 H - 5）。また、図書に限定せずに雑誌、電子ジャーナル、データベース、映像資料の収集も対象としている。（資料 H - 6）

ホームページには、情報検索に役立つ情報リソースページを作成し、各種データベースや電子ジャーナルへアクセス可能としている。図書館の開館時間は資料 H - 7 のとおりであるが、夜 12 時まで利用できる夜間閲覧室も設置されている。毎年、図書館利用ガイダンスを実施しているので年間の利用者数は年々増加し、昨年度には 10 万人を越えた（資料 H - 8）。学生は所蔵資料とともに、インターネットを利用してデータベース等の検索を行ったり、その場でレポート作成をしているため、図書の館外貸出冊数は漸減しているが、学生一人当たりの貸出冊数は 11.2 冊と比較的多い。（資料 H - 9）

資料 H - 4 資料所蔵点数及び雑誌所蔵種数

区 分	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
資 料 所 蔵 点 数	198,257	203,959	213,171	219,760	224,696
雑 誌 等 所 蔵 種 数	3,090	3,101	3,149	3,268	3,323

資料 H - 5 所蔵図書分野別割合

分野	絵本	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然	5 工学	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学
割合	1.0	2.8	5.4	5.1	67.6	7.6	1.5	1.3	1.6	2.1	4.0

資料 H - 6 受入図書・資料数推移

区 分	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
図 書 等	7,647	5,791	9,710	7,170	5,210
視 聴 覚 資 料	129	91	67	45	40
逐 次 刊 行 物	1,063	1,066	1,079	1,179	1,199
電子ジャーナル契約	0	0	2	2	2
デ ー タ ベ ー ス 契 約	3	3	4	4	4

資料 H - 7 図書館開館時間

平 日	授業期間中	9 時 30 分 ~ 20 時
	休業期間中	9 時 30 分 ~ 17 時
土 曜 日	授業期間中	9 時 30 分 ~ 13 時
	休業期間中	9 時 30 分 ~ 12 時 30 分
日・祝日		休館

資料 H - 8 図書館の利用者数

平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
88,314	84,856	82,566	93,602	104,763

資料 H - 9 学生一人当たり館外貸出冊数

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
学 部 生	15.3	14.2	13.2	11.7	11.2
大学院生	29.6	24.2	26.4	20.1	19.3

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、図書、学術雑誌等その他教育研究上に必要な資料は系統的に整備され、有効に活用されていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

全棟に障害者対応のエレベーターを設置し、廊下等には段差を無くすとともに点字ブロックや点字表示付き手摺りを設置するなど、全構内が障害のある学生へ配慮されたものとなっている。学生の経済的軽減をはかるために学生寮を設置し、図書館には夜間閲覧室や子ども福祉図書館を併設するなど、多くの学生が学びやすい環境となっている。また、総学生数が約 1,000 人と小規模な大学ながら、蔵書冊数や演習室、講義室等の教室数も比較的多く、学習環境としては十分なものとなっている。

【改善を要する点】

授業の休講の学生への連絡は、休講掲示板を利用した掲示方式にて行っているが、当・前日等の急なケースについては十分に周知ができないため、速やかに学生へ情報提供できる方式の導入が望まれる。

校舎は建築から約 20 年が経過し老朽化に伴い随時修繕を行ってきているが、空調設備は旧式なものであるため、適切な温度調整がしにくく、教育環境向上のために改修を検討する必要がある。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本学の校地・校舎面積は大学設置基準を上まわっており、本学の目的に沿った演習室、講義室、実習室等が整備されている。構内はバリアフリー化とともに、音声案内や視覚障害者・肢体不自由者用の端末を設置し、さらに附属実習施設や学生寮も整備しているなど、学生にとって学びやすい環境が整備されている。施設・設備の運用に関する方針は全学生・教職員に周知され、特に学生にはオリエンテーション時に関係部局より詳細な説明がなされ、十分に周知されていると考える。総学生数は約 1,000 人と小規模な大学ながら、校地・校舎面積、図書館の蔵書冊数等は十分なものであり、図書館の利用者数や学生一人当たりの利用冊数も比較的多く有効に活用されている。夜間閲覧室や子ども福祉図書館を併設するなど、学生の利便とともに地域にも貢献している。